

# 平成 28 年度 川崎市総合教育センターの研究の推進

川崎市総合教育センター

## 1 今日の課題と川崎市総合教育センターの役割

グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等、社会が激しく変化する今日、「生きる力」の育成がより一層求められている。

近年の我が国の教育の動向としては、平成 25 年 6 月に第 2 期教育振興基本計画が示された。ここでは四つの基本的方向性が示され、その一つとして「社会を生き抜く力の養成」が掲げられている。その後、平成 26 年 11 月に、初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について中央教育審議会に諮問がなされ、学習指導要領の改訂に向けた動きが始まっている。この諮問においても、子どもたちが、社会の変化を乗り越え、高い志や意欲をもつ自立した人間として、他者と協働しながら価値の創造に挑み、未来を切り開いていく力を身に付けることを求めている。

平成 27 年 8 月の中央教育審議会教育課程企画特別部会の「論点整理」では、2030 年の社会を見据え、学校現場において新しい時代に求められる資質・能力を確実に育成していくこと、そのために求められる学校の在り方を不断に探究する文化を形成していくことがより一層重要になることを示している。また、新しい学習指導要領等の在り方について、「社会に開かれた教育課程」の実現、教育課程全体や各教科等の学びを通じて「何ができるようになるか」という観点からの「育成すべき資質・能力」の整理の必要性等を示している。

また、本市においては、平成 27 年度より第 2 次川崎市教育振興基本計画である「かわさき教育プラン」をスタートさせた。基本理念を「夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く」とし、基本目標を「変化の激しい社会の中で、誰もが多様な個性、能力を伸ばし、充実した人生を主体的に切り拓いていくことができるよう、将来に向けた社会的自立に必要な能力・態度を培うこと」「個人や社会の多様性を尊重し、それぞれの強みを生かし、ともに支え、高め合える社会をめざし、共生・協働の精神を育むこと」として、「自主・自立」「共生・協働」の二つのキーワードを示している。

その中で川崎市総合教育センターは、我が国の教育の動向を見据え、かわさき教育プランの目標の実現を目指しながら、各学校の教育活動の充実に関する支援や教職員の資質や指導力の向上等に向けた取組を担っている。

## 2 川崎市総合教育センターの研究について

川崎市総合教育センターでは昭和 61 年の設立以来、時代とともに変化し多様化する教育課題等を踏まえ、川崎の教育の創造と発展に資することを目的として教育に関する研究を行っている。現在は、次に示すような態様で研究を進めている。

- ・各教科等に係る指導内容、指導方法等の充実・改善を目的とした、長期研究員と研究員による研究、指導主事と研究員による研究、カウンセラー研究員による研究、及び市内学校との共同研究

- ・各教育研究所連盟等との共同研究
- ・教育活動及び児童生徒の実態に係る指導主事による調査・基礎研究
- ・様々な教育課題に係る施策研究

### 3 平成 28 年度の研究主題について

#### (1) 平成 25 年度から平成 27 年度の研究について

平成 25 年度から平成 27 年度の 3 年間、研究総括主題を「川崎の未来を創造する子どもの育成」とした。これは、教育基本法の前文において「豊かな創造性の育成や未来を切り拓く教育の確立」がうたわれていることや、かわさき教育プランにおいて「川崎に育つ子どもたちが将来の夢や目標を持って学習や活動に取り組み、川崎市に対する誇りと愛着を持てるようにすること」が述べられていることに基づく。

また授業づくりを主体とする研究を推進するために、平成 25、26 年度の実践研究主題を「社会を生き抜く力を育てる授業づくり」とした。平成 27 年度は授業づくりの視点から教育課程全体に視点を広げ、実践研究主題を「社会を生き抜く資質・能力を育てる指導の在り方」とした。平成 27 年度については、設定した主題のもとに、3 本の長期研究員と研究員による研究、8 本の指導主事と研究員による研究、3 本の指導主事による研究、及び特別研究員による研究、カウンセラー研究員による研究の計 16 本の研究が行われた。

#### (2) 平成 28 年度の研究に求められるもの

これまで、教員の「授業力」や学校全体としての「指導力」の向上を目指して、各種の研究・研修を行うとともに、各学校における真摯な取組も行われてきた。また、平成 27 年度からは、かわさき教育プランの基本政策 I で示されている「キャリア在り方生き方教育」の取組等も行われている。それらの成果は、全国学力・学習状況調査や川崎市学習状況調査等の分析等から明らかになっているように、本市の子どもたちの学習状況の改善につながっていると考えられる。

例えば、平成 27 年度川崎市学習状況調査の中学校 2 年生に対する「生活や学習についてのアンケート」では、「あなたは、自分の住んでいる町がすきですか」に対して「あてはまる」の割合が 43.8% で、前年度より 10 ポイント以上上昇している。「キャリア在り方生き方教育」の三つの視点のうちの「わたしたちのまち川崎」の視点から、身近な地域や川崎の素材を取り上げて、そのよさやすばらしさを感じる学習が展開されていることなどが要因として考えられる。また、「友達と協力しながら、活動したり勉強したりすることはすきですか」に対して「あてはまる」の割合が 50.0% で、前年度より 9 ポイント上昇している。学習活動を工夫し、友達と協働して課題の解決を行う学習が展開されていることなどが要因として考えられる。これらのことから、本市の子どもたちは、地域を愛し、友達と協力しながら活動したり勉強したりすることの良さを感じていることが分かり、これまでの本市の取組の成果と考えられる。さらに今後はかわさき教育プランに基づいた教育を展開していく上で、これまでの取組を踏まえつつ、「論点整理」で示されたように、本市の子どもたちにとって「育成すべき資質・能力」は何かを教職員がより明確に自覚し、その育成に向けた取組を継続していく必要がある。

そこで「育成すべき資質・能力」についてであるが、「論点整理」では次の「三つの柱」で整理することが考えられるとしている。「何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）」「知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）」「どのように社会・世界と関わり、よ

りよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）」である。また、あわせて「こうした資質・能力については、学習指導要領等を踏まえつつ、各学校が編成する教育課程の中で、各学校の教育目標とともに、育成する資質・能力のより具体的な姿を明らかにしていくことが重要である。」と示している。このことについてはさらに「教育課程の総体的構造の可視化」の項で「教育課程全体でどのような資質・能力を育成していくのかという観点から、各教科等の在り方や、各教科等において育成する資質・能力を明確化」することが重要であると示している。各学校においては学校教育目標に基づいて教育課程全体で「育成すべき資質・能力」を明らかにし、さらにその実現に向けて各教科等において「育成すべき資質・能力」を明らかにすることが求められている。

これらのことを踏まえ、川崎市総合教育センターの各研究においても「育成すべき資質・能力」を明らかにして研究を行う必要がある。そのためには研究主題で「これからの社会を担う子どもたちに必要な資質・能力を育成する」ことを示す必要がある。

### （3）平成 28 年度の研究主題について

川崎市総合教育センターの研究主題には近年「未来の創造」「生きる力の育成」「社会を生き抜く資質・能力」といった言葉が含まれている。これらを整理すると「これからの社会や未来を創る力の育成」という視点と、「社会を生き抜く力の育成」という視点の二つが込められているといえる。そのため、平成 28 年度は、これまでの取組を生かす意味でも、これら二つの視点に沿った「資質・能力を育成する」ことを明確にする研究主題が必要である。また、「育成すべき資質・能力」をかわさき教育プランに基づいて示すことで、各研究がこれまで以上にプランに沿って進められると考えられる。

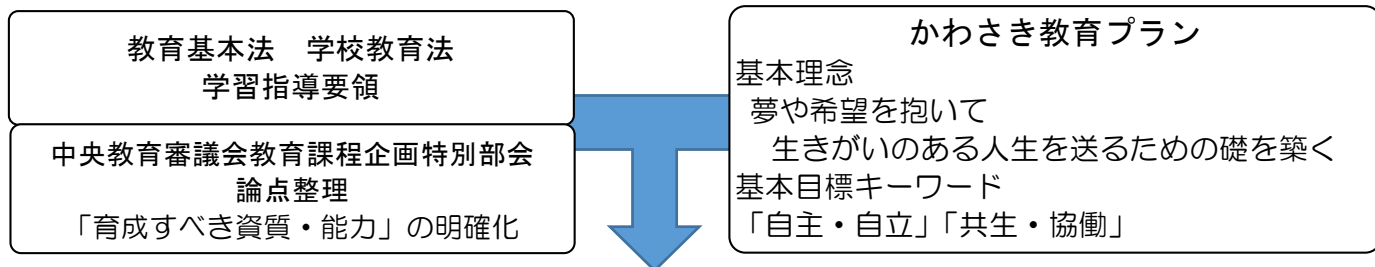
そこでセンターの研究において共通理解を図りながら研究を進めていくためにも、「育成すべき資質・能力」については、かわさき教育プランの基本目標のキーワードである「自主・自立」「共生・協働」を常に意識するようにする。そのために研究主題を一本化して、全ての研究がかわさき教育プランに基づくことを示すとともに、各研究における「育成すべき資質・能力」を明らかにして研究に取り組むようにする。これらの取組により、かわさき教育プランの基本理念である「夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く」の実現により即した研究を行うことができる。以上を踏まえ、平成 28 年度の川崎市総合教育センターの研究主題（実践研究主題）を以下のようにする。

平成 28 年度 川崎市総合教育センター 実践研究主題

**未来を創り、社会を生き抜く資質・能力の育成**

平成 28 年 12 月 21 日の「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」には「育成を目指す資質・能力の三つの柱」として「何を理解しているか、何ができるか（知識・技能）」「理解していること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）」「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力・人間性等）」と示されている。

# 川崎市総合教育センター 平成28年度 研究体系図



## 川崎市総合教育センターの研究

### 実践研究

#### 平成28年度 実践研究主題 未来を創り、社会を生き抜く資質・能力の育成

- 各教科等に係る指導内容、指導方法等の充実・改善を目的とした研究
- 各教科等の教育指導のための教材・資料等の作成・開発を目的とした研究
  - ◎長期研究員と研究員による研究（3）
    - 図画工作・美術科：創造性豊かに自己の価値を見いだす子どもの育成
    - 主権者教育：集団や社会への関心と、その一員としての自覚を育む主権者教育
    - 特別支援教育：通常の学級における読み書きが困難な児童生徒の学びを保障する学習方法を探る
  - ◎指導主事と研究員による研究（6）
    - 特別活動：自己を生かし、豊かな学級・学校生活をつくっていく特別活動
    - 外国語教育：小中の英語教育を円滑に接続する文字指導の工夫
    - 道徳：児童生徒の道徳性を育むための問題解決的な学習の工夫
    - 健康教育：健康に関するセルフケア能力の向上を目指した保健指導
    - 高校教育：生徒が主体的に取り組みたくなる授業実践
    - 情報教育：受け手を意識した伝え方を考える授業づくり
  - ◎カウンセラー研究員による研究：共感的理解の視点を持った生徒・保護者との関わり
- 市内学校との共同研究

- ### 共同研究
- 各研究所等との共同研究
  - ◎指定都市教育研究所連盟
  - ◎神奈川県教育研究所連盟
    - 研究大会での研究報告  
《川崎大会》
  - ◎関東地区教育研究所連盟  
全国教育研究所連盟  
所長協

- ### 施策研究
- 教育施策等に係る研究
  - ◎習熟の程度に応じたきめ細やかな指導に係る研究
  - ◎全国学力・学習状況調査の分析及び活用に係る研究
  - ◎食育に係る研究

- ### 調査・基礎研究
- 教育活動及び児童生徒の実態に係る調査研究
  - ◎各センター指導主事研究
    - カリキュラムセンター  
：川崎市小・中学校教育基本調査  
：授業者に応じた指導・助言の在り方の研究
    - 情報・視聴覚センター  
：情報活用能力チェックリストの在り方の研究
    - 教育相談センター  
：登校支援の在り方の研究
    - 特別支援教育センター  
：特別支援教育体制充実事業調査基礎研究